

奄美の風便り

VOL.30(秋:7号) 2007. 10. 10 ANC:New Letter

発行・編集:奄美自然体験活動推進協議会

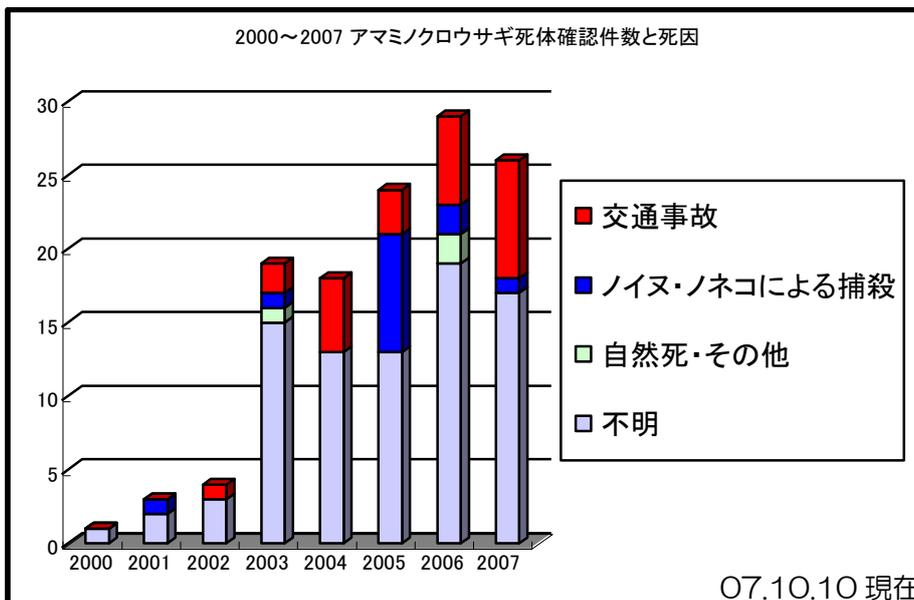


セイタカシギ

昼間は暑い日が続きますが、朝夕の気温は下がり始め秋の訪れを感じる今日この頃です。気候の変化もさることながら、冬鳥・旅鳥の到来にも秋の訪れを感じます。ハクセキレイ、キセキレイ、セイタカシギ、サシバなどなど。去年は冬鳥がたくさん奄美に訪れましたが、今年はたくさん来てくれるのでしょうか。理由は分かりませんが、冬鳥がたくさん訪れる年が1年おきにくる傾向があるようです。不思議ですよ。理由をご存知の方、是非教えて下さい。

さて、突然ですが「ロードキル」という言葉を皆さん聞いたことがあるでしょうか。野生動物の交通事故死のことをいいます。

アマミノクロウサギのロードキルは年々増加しており、今年はすでにロードキルが原因と思われるクロウサギの死体が8頭も奄美野生生物保護センターに運ばれてきています。センターに寄せられた情報だけで8頭ということなので、実際にはもっと多くのクロウサギがロードキルによって命を奪われているだろうと考えられます。



年々増加する原因の一つとして、林道がきれいに舗装され、誰でも行きやすくなったことで、交通量が増加し、野生生物に配慮した運転がなされていないことが挙げられると思います。

アマミノクロウサギは秋頃から活動が活発になり、道路上に出て来ることが多くなると言

われています。繁殖のために活発に行動しているのかもしれません。



注意標識

林道など交通量が少ない道だけではなく、国道58号線の奄美市住用町から瀬戸内町にかけての区間にもクロウサギは多く出没します。国道58号線には、クロウサギが出る可能性の高い危険地域にクロウサギの注意標識が立てられています。

クロウサギは突然、なんの前触れもなく飛び出してることがあります。林道ではいつでもすぐに止まれる速度で。国道58号線でも、スピードを出さず、クロウサギが多く出没するという意識を持って運転をして下さい。

夜間はどうしてもスピードを出しがちですが、ドライバーのみなさんに野生生物に対する気遣い・思いやりを持った運転をしていただきたいです。



奄美市住用町にて

上の写真はロードキルにあったアマミ/クロウサギです。

アマミ/クロウサギは奄美の宝です。

みなさんの思いやりのある運転をお願いします。

お知らせ

第8回「やせいのいきもの絵画展」作品募集について

【趣旨】

奄美野生生物保護センターと奄美自然体験活動推進協議会では、今回で第8回目となる「やせいのいきもの絵画展」を開催します。今回のテーマは、「わたしが見つけた奄美の宝」です。

奄美群島が世界自然遺産への登録を目指している今、子どもたちに改めて奄美の自然を見つめてもらい、そして自分たちの“奄美の宝”を見つけてほしいと思います。この絵画展をとおして自然環境への興味・理解が深まることを期待します。

- 【主催】
- ・環境省奄美野生生物保護センター
 - ・奄美自然体験活動推進協議会

【内容】

テーマ : 「わたしが見つけた奄美の宝」

用紙サイズ : B4サイズ(364mm×257mm)程度の大きさ。紙の種類は問いません。

パステル・水彩絵の具・油絵・ちぎり絵等種類は問いません。

応募資格 : 小・中学生(小学3年以下を低学年とする)

締め切り : 平成19年11月20日(火)センター必着

奄美野生生物保護センターあて郵送でお送り下さい。

入選者発表 : 平成19年11月下旬に主催者により厳正に審査を行います。

審査の結果は主催者側から直接本人に通知します。

賞 : 以下の賞には賞状・副賞が授与されます。

いきもの大賞 低学年の部、高学年・中学生の部 各1作品

あざやか賞 低学年の部、高学年・中学生の部 各2作品

ユニーク賞 低学年の部、高学年・中学生の部 各2作品

審査員特別賞(センター・協議会) 学年問わず2作品

【絵画展の日程】

表彰式 : 平成19年12月1日(土) 13:00から

展示 : 平成19年12月1日(土)～平成20年1月31日(木)まで

奄美野生生物保護センター内企画展示室にて行います。

【送り先・問い合わせ先】

奄美野生生物保護センター 担当 : 吉田・勝間田

〒894-3104 大島郡大和村思勝字腰ノ畑551

TEL (0997) 55-8620 FAX (0997) 55-8621

協議会活動報告

～奄美自然ふれあい行事～

○ネイチャークラフト教室

「海からのおくりものアート」

海辺には、流れ着いた貝がら・サンゴ・木の実・流木などの自然の素材や、ガラスが波でけずられてできたビーチグラスなどが落ちています。そんな海からのおくりものを集めて、立体感のある芸術作品を作ってみましょう。作品を仕上げていく過程で、奄美と外の世界との海を通じたつながりについて感じてみましょう。

と き：平成19年7月28日（土） 13:00～17:00

ところ：環境省奄美野生生物保護センター

素敵な貝がら
拾ったよ！



しっかり洗わな
くちゃ！



さあ！まずは材料となる貝がらなどを集めましょう！センター近くにある国直海岸へ行ってきました。

拾ってきた貝がらなどは一度水で洗ってからつかいます。



お母さん、お父さんも手伝ってくれて、貝がらなどをみんなで干しました。



さて！どんな材料でどんな作品を作ろうか、みんな思案中です！！



みんな真剣に作品を作っています。
 どんな作品になるのでしょうか。
 楽しみです！

最後に、完成した作品を自慢してもらいました！みんなとても素敵な作品を作っていました！
 そして、保護者の方からイベントをふりかえってみて感じた事などを発表していただきました。

「海からのおくりものアート」は参加者32名と、たくさんの方に来ていただきました。
 今回は保護者の方も一緒に参加をしていただくイベントでしたが、子どもたちと一緒に保護者の方も楽しそうに制作をしていたのがとても印象的でした。イベントをふりかえって書いていただいた感想は「子どもから大人まで楽しめた」「自然の美しさを知ることができた」「海にある貝がらなどで、今まで思いつきもしなかったような物が作れるのかと気づいた」などなど。保護者の方にも大好評でした。

～作品ギャラリー～



↑上の写真は一部ですが参加者の作品にいます。みんなすばらしい仕上がいです！

○自然観察会

「のぞいてみよう！身近なムシのからだ不思議」

身近なムシたちを探して捕まえてみるだけでなく、実体顕微鏡を使ってムシのからだの各部分を拡大してじっくりと観察してみましょ。からだをクローズアップで見ることにより、その食べ物や暮らし方を考え、生きもの同士のつながりや自然とのかかわりについて学びましょ！

と き：平成19年8月8日（水） 10：00～12：30

ところ：環境省奄美野生生物保護センター



今回の自然観察会では、大和村大棚小学校の堂園先生に講師をしていただきました。参加者14名、野外での暑い日差しの中のイベントとなりましたが、怪我人・熱中症になる子どもでず、終始賑やかな雰囲気イベントは進んでいきました。夏の暑い日差しの中、ムシ網をもち「ムシはどこいる？」「大きなバッタを捕まえた！」と夢中になり楽しそうな子どもたちの笑顔を見ると、とても嬉しくなりました。

実体顕微鏡で堂園先生がムシの細部まで見せ、説明をしてくれた際は食い入るようにスクリーンを見つめ、歓声を上げていました。食べるもの、生活する場所が異なることで、ムシたちの体の構造が大きく違い、適した構造になっていると分かり、また興味を持ってもらったようです。これを機にムシに興味を持ち、ムシと自然とのつながりもどんどん学んでいって欲しいなと思いました。

H19.8.23 南海5

身近な生き物 不思議発見!

自然観察会 野生生物保護センターで 大和村



奄美野生生物保護センターであった夏休み子供自然観察会

子供たちに身近な自然 奄美野生生物保護セ
と触れ合ってもらおうと ンターでありました。村
夏休み子供自然観察会 内外から十四人の小学生
「のぞいてみよう!身近 が参加。顕微鏡や虫眼鏡
なムシのからだだと不思議を使って、生き物をじつ
議」(環境省奄美野生生 くり観察しました。
物保護センター、奄美自 同センターでは「自然
然体験活動推進協議会主 に親しむ運動」としてさ
」が八日、大和村の環 まざまな行事を毎年開催
してきます。今回は同村 知って子供たちはほと
の大棚小学校の堂岡隆男 驚いている様子でした。
教諭(ま)を講師に招きま センターに持ち帰り、本
で名前を調べたり実体顕 微鏡でのぞいてみると
外に出て生き物を探す とトンボやチョウ、カエ
ル、アメンボがたくさん うなものがたくさんあ
る。「ヌマガエルは口の つくりが三角」「アメン
ボは手足に毛の ようなものが付
いている元々、 いるんことが
分かりました。
前園凌君(小 宿小四年)はい
っぱい虫を捕ま えました。トン
ボのしっぽは先 の方が二つに分
かれていて、こ を初めて知りま
した。」と話しま

H19.8.16 大島5

ムシはどんな 口してるかな?



顕微鏡で捕まえた虫の体を観察しました

奄美野生生物保護センターで観察会

顕微鏡で構造知る

身近な昆虫を観察し 参加した子どもたちは
まこと8日、大和村思 バッタやトンボを捕ま
勝の環境省奄美野生生 え、顕微鏡(げんび
物保護センターで夏 きよ)で昆虫の体を
休み子供自然観察 観察しました。
会が開かれました。 自然観察会は身近な
昆虫を採り捕まえるは「トンボは後ろか
だけではなく、顕微鏡 ら、チョウは前から虫
を使って虫の各部 取り網を近づけると捕
分を拡大して観察する まえやすいです」と指
ことが目的です。
参加した約20人の子 続いて子どもたち
どもたちははじめに、 は、昆虫の体の構造を
同センターにある池の 顕微鏡で観察しまし
周りでトンボやチョ た。昆虫は種類によっ
ウ、バッタなどの昆虫 て真べ物が違いため、
を探しました。虫の 口の形も違います。花
捕まえ方もいろいろあ ります。大和村立大棚
小学校の堂岡隆男先生 していただきます。堂 どもを飛ばし昆虫が多
ました。

園先生は「昆虫の口を かった。ヤゴなど産卵
観察すれば虫の食 虫ではあったに見られ
べものが違ってくる ない虫を観ることがで
分かります。種類の違 きてよかった」と話し
る子どもたちが自然のな ました。

奄美のラン



ナゴラン

ランの仲間ほど、古くから世界中で観賞用に栽培され、広く愛されている植物はないでしょう。

ランは単子葉植物のラン科に含まれ、独特の形の美しい花を咲かす種が多い植物です。

奄美大島には約80種のランが生育しています。彼らは、森の中、林縁、草むらから海際まで様々な環境にそれぞれ適応し、多様な姿・生態をもっています。

私がランの魅力に引き込まれたのは、ナゴランとの出会いがきっかけでした。オオトラツグミの調査で早朝の森を歩いていた時のことです。辺りにふんわりと甘い香りが漂っていることに気づきました。見回すと、木の幹にしがみつくように付着した植物が白い花を二つ咲かせていました。リップ（唇の形をした花びら）は露に濡れ、暗い林の中で花弁はみずみずしく光って見えました。朝靄と甘い香りの中で出会ったその花の輝きは今でも忘れることができません。

林床のラン

湿度が高い奄美の森はランの宝庫、多くの種類が生育しています。森に春の訪れを知らせるアマミエビネ、大の字になった人のような花がユーモラスなツルラン、花弁の黄色が鮮やかなヒメトケンランなど、1年を通じて様々なランと出会えます。

ランの根には菌類が共生しており、ランはこの菌から栄養をもらっています。中には、タネガシマムヨウランのように光合成をやめて菌類からの栄養だけで生きている種類もあります。光合成しないので、当然葉っぱはありません。



アマミエビネ



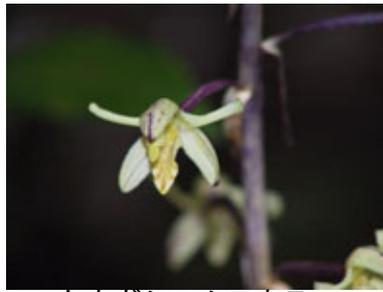
ヒメトケンラン



カクチョウラン



ツルラン



タネガシマムヨウラン



オキナワチドリ

樹上のラン

ナゴランのように頑丈な根を木の幹や岩場に絡ませ、地上から離れて生育するランは「着生ラン」と呼ばれます。着生ランの根にはスポンジ状の組織があり、雨や霧などの限られた水分を吸収することができます。特徴的な太い根は、本来の生育の場であった地上から離れて生きていくために進化した姿なのです。

日向のラン

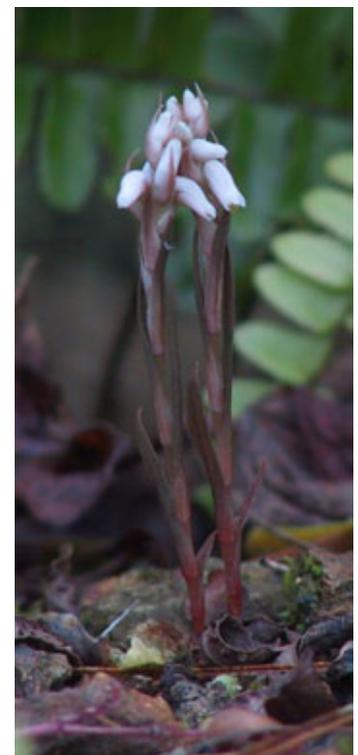
林内だけでなく、開けた明るい場所に生育する種類もあります。1 m以上の高さになるカクチョウランは林縁の日当たりのいい場所、ぬいぐるみのような花がかわいいオキナワチドリは海岸近くの草地や岩場に生育します。

身近なラン

野生のランというと珍しいという印象を持つかもしれませんが、意外と身近にも生えています。花が螺旋状に咲くナンゴクネジバナ、5mmほどの控えめな花を咲かせるキヌランは公園の芝生にも生えています。



ナンゴクネジバナ



キヌラン

奄美には多くの美しいランが生育していますが、園芸用の採取などによって絶滅の危機に瀕している種類もあります。奄美のランのうち、9種類※1が鹿児島県希少野生動植物保護条例、1種類※2が絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律で、採取が禁止されています。

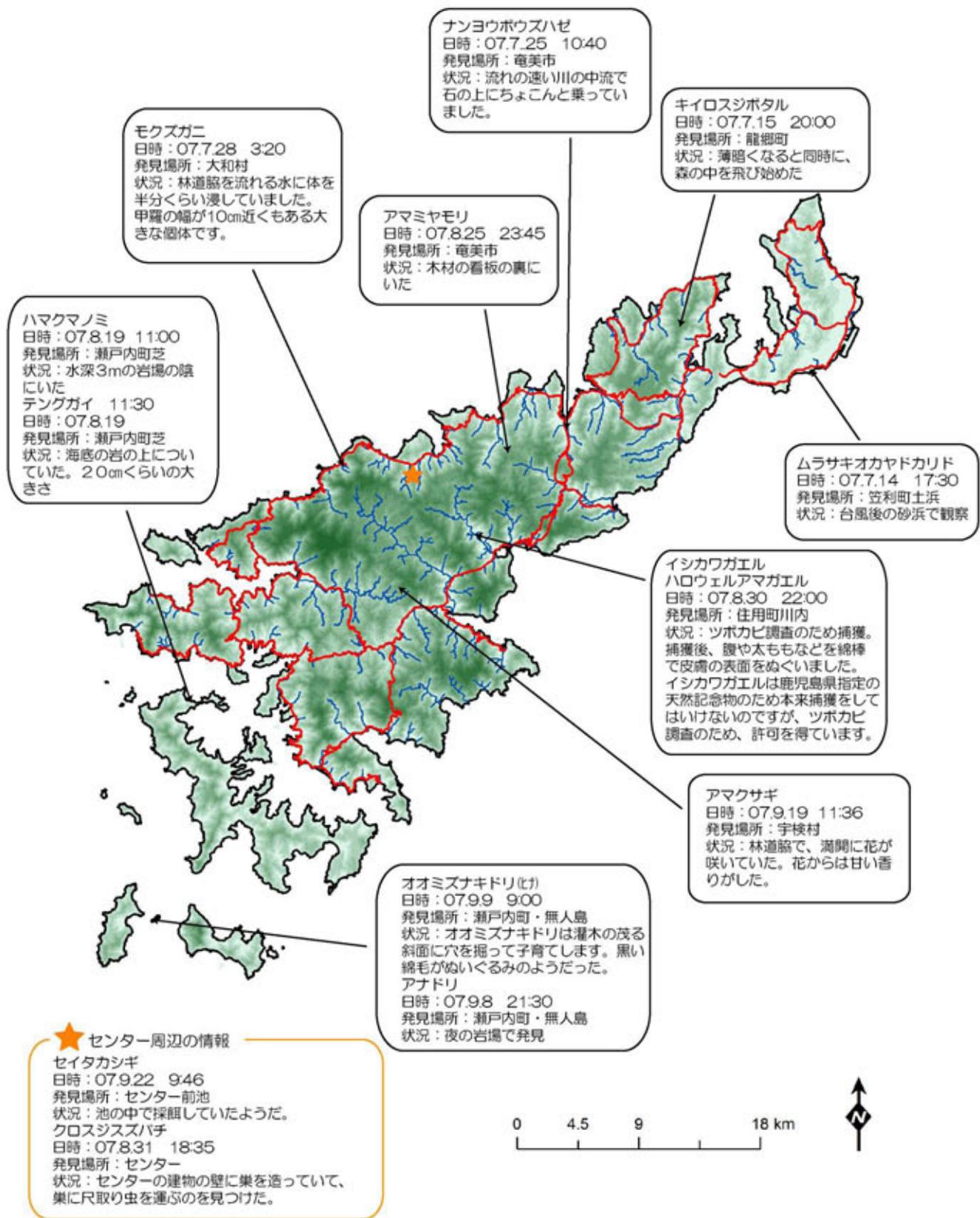
豊かな自然に抱かれて進化を続けているランたちは、その進化の舞台で咲いてこそ最大の魅力があると思います。美しい花を独り占めしたいという欲望に打ち勝ち、自然の中で観察を楽しみたいものです。

(アクティブレンジャー 迫田 拓)

※1 クスクスラン、シコウラン、アマミエビネ、レンギョウエビネ、オナガエビネ、カンラン、フウラン、カクチョウラン、ナゴラン

※2 コゴメキノエラン

奄美大島生き物情報(寄せられた情報の一部)



秋に見られる野生生物

アマクサギ[クマツツラ科]

山野に広く自生する小高木。7～9月頃、萼が赤色で花弁が白色の花が人目を引く。10～11月頃、赤紫色の萼に青紫色の果実がついて美しい。若葉をみそ汁に入れて食べると、臭みが消えておいしい。
分布：台湾 九州以南



オットンガエル[アカガエル科 絶滅危惧IB類]

奄美大島、加計呂麻島に分布している。普通カエルの前足の指は4本だがオットンガエルは5本目の指を持つ。5本目の指には鋭いツメが隠れている。繁殖期は4～10月。

—アクティブレンジャー永井さんからの情報です—

オットンガエルの写真の下に二つの写真がありますが、左はオットンガエルの産卵巣です。産卵巣は、溪流そばの水の流れが緩やかで平らな地面にクレーターの様に掘られてあり、中には浅く水が溜まっていて卵塊がぎっしり浮いていました。

右はオットンガエルの産卵巣を確認してから1週間後の様子です。産卵巣の中には孵化した多数のオタマジャクシとガラスヒバアの幼蛇がいます。幼蛇は水中に頭を何度も突っ込みオタマジャクシを食べていました。

永井さんはいつも面白い写真を撮ってきてくれます。私はオットンガエルの産卵巣を初めて見ました。ガラスヒバアの幼蛇はオットンガエルのオタマジャクシを全部食べてしまったのでしょうか。生き残ったオタマジャクシはいるのでしょうか。自然界は厳しいです。



参考文献 南九州・里の植物（南方新社 写真と文：川原勝征 監修：初島住彦）

奄美のカエル図鑑（奄美自然体験活動推進協議会・環境省奄美野生生物保護センター）

編集後記

サシバがついに渡来。10月4日に、ここ奄美野生生物保護センターでも初確認しました。冬鳥が訪れて気分はすっかり秋なのですが、昼間のこの日差し…この気温…夏です…。気分だけではなく装いも早く「秋」になりたいと思う今日この頃です。

編集・発行：奄美自然体験活動推進協議会事務局

- 〒894-3192
鹿児島県大島郡大和村大和浜100
大和村役場 総務企画課
TEL：0997-57-2111
- (連絡・書類等送付先)
〒894-3104
鹿児島県大島郡大和村思勝字腰ノ畑551
奄美野生生物保護センター内
TEL：0997-55-8620
FAX：0997-55-8621
Email：amami_rabbit@nifty.com